

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 25 期第 1 回)

日時：2020 年 12 月 3 日 (木) 16:45～17:30 (幹事団決定のみ 13:15～13:30)

場所：電子会議 (新型コロナウイルス感染症対策下のため。

ZOOM テレビ会議システムを使用。)

出席者：林、渡部、山崎、生田、浅井、今田、梶田、佐々木、新永、住、田代、田近、千葉、
深川、藤澤、観山、山田

欠席：相川、奥村、坂井、須藤、常田、藤井、村山

オブザーバー：山岡均 (国立天文台)、大石雅寿 (国立天文台)、富田晃彦 (和歌山大学)

梅村雅之 (天文学会会長)、岡朋治 (宇電懇委員長)、

北本俊二 (高宇連会長代理)、当真賢二 (理論懇運営委員長)

(順不同、敬称略)

(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

1. 委員長・幹事団決定

山崎委員より、委員長に渡部委員を推薦する提案があった。賛成意見多数のため、渡部委員を委員長に選出した。

渡部委員長より、副委員長に生田委員を推薦する提案があった。また、幹事としては、天文学・宇宙物理学分科会と兼任で深川委員、浅井委員を推薦する提案があった。賛成意見多数のため、副委員長として生田委員、幹事として深川委員、浅井委員を選出した。

学術会議事務局において各委員のメールアドレスを共有することについて確認した。また、分科会開催後、議事録の「8 週間以内の掲示」が求められており、今期も強く推奨される。そこで、議事録案を分科会メンバーに回覧し、最低 1 週間程度の確認期間をもってから委員長が承認することとし、今回の議事録からそのように進めることを確認した。

2. 24 期からの引き継ぎ事項と 25 期の活動方針について

渡部委員長が、資料 1 に沿って説明を行った。会員の推薦は、国内で審査してから IAU に持っていくという手順である。IAU が独自に会員登録のサイトを立ち上げているのでそれを使う。「名誉会員」に日本から推薦が一人もない状況のため、IAU 会員でない方で、天文学に寄与した方々をぜひ推薦したい。シンポジウム等の積極的な誘致や参加の奨励をする。特に若い人の参画・活躍を期待する。IAU 総会の日本への誘致に向けても活動を行っていききたい。分科会活動の理解・周知については、岡村定矩氏(前期まで委員)の天文月報 IAU 紹介記事をぜひ一読頂きたい。資料 3 に活動報告をまとめたが、インパクトがあったのは提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」(「ハッブル-ルメートルの法則」)である。また IAU 文書の日本語化で、IAU 本部に戦略計画の他言語版がのっているの

は日本ぐらいではないか。現在会員数では、アメリカ、フランス、中国に次いで、日本は第4位である。拠出金は、IAU としてのカテゴリ VII で、学術会議内の分担金の中でも IAU は高額であることを認識しながら様々な活動を行っていく。

(C 山岡) IAU 分科会の役割として、OAO/NOC、OAE/NAEC のアポイントメント (3 年に 1 回) を行うことになっている。2021 年 8 月までにこれら各種のコーディネーターを選ぶ。

3. 今年度の活動方針について

渡部委員長が、今年度の活動方針の確認を資料 1 に沿って行った。IAU の会員登録制度と審査のスムーズな運営、名誉会員の具体的な推薦を行うことの説明があった。また、引き続き、IAU 各種活動の誘致、参加の奨励 (具体的には APRIM2023 の誘致活動など) を行う予定である。また、日本学術会議側や天文学コミュニティと情報共有を積極的に行う。

4. その他

(1) IAU 総会について

渡部委員長より、2022 年 8 月に延期になったことが報告された。3 年ごとの役員の交代等はバーチャルで行うことになった。ぜひ若い人に IAU 活動に参加いただき、日本の存在感を出していただきたい。

(2) NAEC 日本チームの活動について

OAE (Office of Astronomy for Education) の NAEC (National Astronomy Education Coordinator) コーディネーターである富田氏から、資料 4 に沿って説明があった。NAEC 日本チームは 5 人体制で、任期については、IAU の総会と同期するよう、3 年とした。学校教育に重心を置くため、活動拠点として NAEC 日本チーム 5 人に日本天文教育普及研究会の会員 4 人を加えた「IAU 天文教育コーディネーターWG」を天文教育普及研究会に設置した。10 月初めの Shaw-IAU Workshop on Astronomy Education 世界大会で各国の NAEC 立ち上げのオープニングセレモニーがあり、日本の天文教育の状況を報告した。OAE では多国語対応のオンライン用語集の作成が検討されており、日本天文学会のインターネット天文学辞典も参照されている。年会や TENNET 等で活動報告をしていきたい。その際には、分科会に報告内容の一報を入れてから流すようにしたい。

(3) 光害について

※天宇分科会から IAU 分科会に移した議題

大石氏から、Starlink 衛星などに関する懸念について報告があった。4 月から石垣島天文台むりかぶし望遠鏡で Darksat も含めて実際の明るさを測定している。今後 VisorSat の明

るさについても国内望遠鏡で定量的に評価していきたいと考えている。レーザー照射を行う小型衛星（設計段階）についても、引き続き注視している。

（Q 新永）VisarSat は見込みではどのくらい効果があるのか。

（A 大石）すでに何機か打ち上げられており、DarkSat よりも暗く、肉眼では見えない程度の明るさに抑えられるようだ。ただし、天文用の望遠鏡で見れば非常に明るく、赤外ではさらに影響が深刻だと考えられるため、さらに明るさをどう抑えるかがこれからの課題になるだろう。

（Q 林）Starlink は何機上げる予定なのか。

（A 大石）第 1 期は約 4,000 機を上げる。計画上は 42,000 機だが、計画どおりになるかは分からない。

（４） OAO 活動報告

山岡氏より、資料 5 に沿って、IAU 戦略計画に掲げられた活動目標や、ニュースレターの発行、アウトリーチ関係者・団体間のネットワーク構築・維持など、OAO の様々な活動が報告された。国立天文台に OAO が入り、IAU と国立天文台の両方のサポートで活動している。IAU100 があった前年と比べると大きな活動は少ないが、順調に活動している。

・その他

次回の分科会は、新会員の推薦（締め切り 2 月 15 日）の必要があるため、それまでに開催する。

（C 林・山崎）学術会議 IAU／天文学・宇宙物理学分科会の議事録抜粋を TENNET に流す予定である。各分科会での幹事団が決まったことは速報的に TENNET に流す予定である。また、それとは別に議事録等が掲載されたタイミングでも TENNET に流すことを予定している。

以上